

○主題名、ねらい、評価の視点の設定

【主題名、ねらい】

道徳科では、①ねらいや指導内容についての教師のとらえ方、②それに関連する子供のこれまでの学習状況や実態と教師の願い、③使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法等をもとに、主題を設定していきます。

※次頁以降の「2 主題設定の理由」に示しています。

※「ねらい」・・・道徳科の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相を端的に表したものの。

※「主題」・・・指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものであり、「ねらい」とそれを達成するために活用する「教材」によって構成される。

※「主題名」・・・ねらいと教材で構成した主題を、授業の内容が概観できるように端的に表したものの。

【評価の視点】

次の2つの視点から子供たち一人一人の学習の状況を評価します。

視点1 一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展しているか。

視点2 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、どのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、学習構想を立てましょう。

小学校第6学年 道徳科 学習構想案

1 学習構想

主題名	自分の中にある誠実な心（内容項目A(2)正直, 誠実）	
ねらいと教材	(1)ねらい 手品師の葛藤や決断について話し合うことを通して、自分の心の中にある誠実さを確かめながら、自分や他者に対して誠実でいようとする心情を育てる。 (2)教材名 手品師 出典:「〇〇(〇〇社)」	
評価の視点	評価の視点1	評価の視点2
	問題に直面した際の言動やその判断の根拠について、誠実さという点から多面的・多角的に考えようとしている。	自分の中にある誠実さについて振り返り、これまでの自身の言動と重ね合わせながら考えようとしている。

目指す児童の姿

自分の中にある誠実さを確かめながら、自分や他者に対して誠実でいようとする児童

主題に迫る学習課題（本時）

判断に迷ったとき、どんな心をもって、選ぶとよいのか。

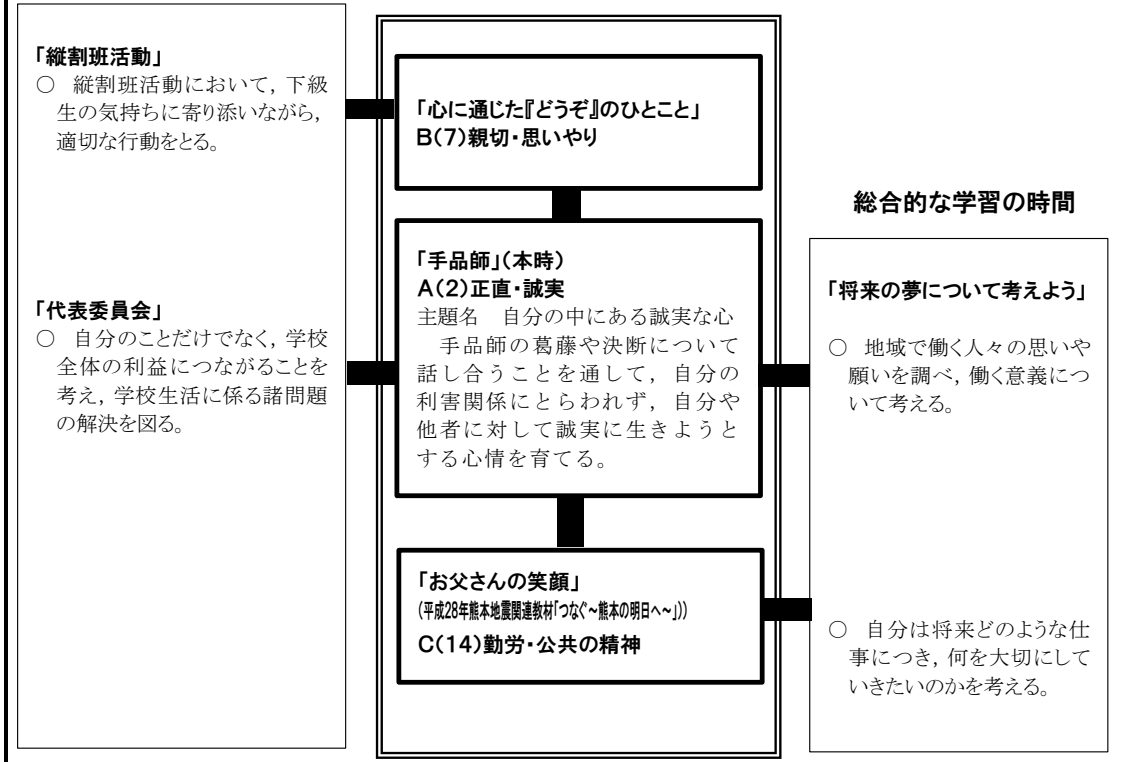
本主題で働かせる見方・考え方

誠実さについて多面的・多角的に考え、自分との関わりで考えながら、自己の生き方についての考えを深めていくこと。

内容項目相互の関連的・発展的な指導、各教科等や体験活動等との関連的指導

特別活動（児童会活動）

道徳科



★「目指す児童の姿」のポイント

- ねらいや評価の視点を踏まえた子供の姿となっていますか（文末は「～しようとしている子供」）
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践しようとしている子供の姿を示します。

★「本時で働かせる見方・考え方」のポイント

- 学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

道徳科の見方・考え方は、道徳科の目標に示されている「様々な事象を、道徳的価値の理解を基に自己との関わりで(広い視野から)多面的・多角的に捉え、自己の(人間としての)生き方について考えること」です。
ここでは、本時のねらいに合わせて記述します。

★「内容項目相互の関連的・発展的な指導、各教科等や体験活動等との関連的指導」作成のポイント

【関連的・発展的な指導】

内容項目相互の関連性、発展性を考慮して指導の順序を工夫することで、子供たちの実態に応じた適切な指導を行うことができます。

【各教科等、体験活動等との関連的指導】

道徳科は、各教科等、体験活動等との関連的指導や複数時間の関連を図った指導等を意図的・計画的に行うことで、指導の効果を高めることができます。

※道徳教育の全体計画別葉(各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの等)を参考としながら、道徳科の授業を単発とせず、いかに他の内容項目や教育活動との関連を図ることができるか、その構想の工夫が求められます。

★「主題に迫る学習課題」のポイント

- 子供たちが興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 目指す児童の姿に迫るものですか

道徳科の場合は、1単位時間で1つの内容項目を取り扱うことが一般的ですので、ここに示す「学習課題」は本時の「学習課題」とリンクさせています。

学習構想案作成のポイント（本時）

導入の工夫

導入は、主題に対する子供の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階です。

【具体的な導入の例】

- ①本時の主題に関わる問題意識をもたせる。
- ②教材の内容に興味や関心をもたせる。など

展開の工夫

展開は、ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、子供たち一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめる段階です。

【具体的な展開の例】

発問を中心にする...

- ①教材に描かれている道徳的価値に対する子供たち一人一人の感じ方や考え方を生かす発問を行う。

- ②物事を多面的・多角的に考えたり、子供が自分との関わりで道徳的価値を理解したりする発問を行う。など

※教師の指導の意図(目の前の子供の実態を踏まえ、どのようなことを考え、気づいてほしいのか)を明確にした学習活動が重要!

終末の工夫

終末は、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階です。

【具体的な終末の例】

- ①学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。
- ②学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする。など

4 本時の学習

(1)ねらい

手品師の葛藤や決断について話し合うことを通して、自分の心の中にある誠実さを確かめながら、自分や他者に対して誠実でいようとする心情を育てる。

(2)展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	1 本時の学習課題を知る。 ①二者択一の場面を与え、児童に考えさせる。 「運動会の仕事」と「委員会活動の仕事」と重なったとき、どんな理由で一方を選び、関係する友達や担当の先生に説明しますか。 【学習課題】 判断に迷ったとき、どんな心をもって、選ぶとよいのか。	(「問い」を生み出す手立て等) ○打算的な考え、他者を優先した考え、自身の信念等を基にした考えなど、様々な視点から選んだ理由を出させることで、自身の経験に基づく様々な判断規準を想起させ、本時の学習課題につなげる。
		②教材「手品師」の概要を把握する。 ◇「手品師」という仕事は、人を笑顔にする夢のある仕事だなあ。 ◇「手品師」は、何に迷ったのだろう。	○学習課題の提示後に、教材「手品師」と出会わせ、「手品師」という職業や登場人物の葛藤場面について簡単に紹介することで、教材の中に描かれている問題に気付かせ、中心発問につなげていきたい。
展開	30分	2 教材を読み、道徳的価値について考える。 ①手品師は、友人からの誘いを聞いて、どのようなことを考えたか。 【男の子】 ↔ 【大劇場】 ◇男の子と約束したから。 ◇男の子を元気づけたい。 ◇男の子と約束したから。 ◇大劇場の舞台に立ちたい。 ◇誘ってくれた友人が悪い。	(個に応じた支援) ○男の子との約束を守るだけでなく、絶え間ない努力によって夢を叶えることにも誠実さがあることを踏まえて発問を行う。 ○自分や友達の考えの立ち位置が視覚的に分かるように、スケール図にネームプレートを貼るようにする。 ○多面的・多角的に考えられるように、児童の発言内容を受けて次の発問を行う。 【男の子】を選んだ児童に対して ・男の子との約束より大劇場のステージに立つことを選ぶことはいけないことか。 ・自分の夢をかなえようとするのは、いけないことか。 ・自分を犠牲にする必要があるのか。 【大劇場】を選んだ児童に対して ・男の子との約束を、自分の夢のために破ってよいのか。 ・男の子を悲しませてもよいのか。
		②どちらにも共通する大切な心とは何だろう。 ◇人を幸せにしたいと思う心 ◇人が喜ぶ姿をみたいと思う心	○どちらを選んだにしても、児童自身の真面目さや真心(他者を思う心)が共通点としてあることに気付かせていきたい。
終末	10分	3 自分自身を振り返る。 ① 手品師のような心が自分の心の中にもあるか、考えよう。 ◇ これまでよく考えずに友達に合わせて行動することが多かったけど、判断に迷ったときは、どちらがより人を大事にしたことなのかをしっかりと考えていきたい。 ◇ 手品師は、男の子との約束を守ったことで、チャンスを逃してしまったかもしれないけれど、自分で後悔をしない生き方をしていたと思う。自分も周りの人の気持ちや思いをしっかりと考えながら、後悔しない選択をしていきたい。	○委員会活動や学校行事等で働いている児童の姿をスライドで見せ、自分の心の中にある誠実さ(学校全体、友達、先生、低学年の児童、地域の人、家族等を大切にしたい心)を想起できるようにする。

【評価の視点1】問題に直面した際の言動やその判断の根拠について、誠実さという点から多面的・多角的に考えようとしている。(方法:発言・ワークシート)

【評価の視点2】自分の中にある誠実さについて振り返り、これまでの自身の言動と重ね合わせながら、考えようとしている。(方法:ワークシート)

「ねらい」について

内容項目を手掛かりとしながら、育てようとする道徳性(人間としてよりよく生きようとする人格的特性)を構成する諸様相(道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度)の中で、焦点を当てるべきことを表記します。
※道徳性の諸様相については、どれか一つを扱うと限られているわけではなく、複数ねらいも授業もあります。



「評価の視点」について

授業の「ねらい」は、子供たち一人一人の道徳性(道徳的判断力・心情・実践意欲・態度)を育てることでありますが、**道徳科の授業では、その道徳性がどれだけ育ったかを評価するのではなく、子供たち一人一人の学習状況を評価します。**

※道徳科は人格そのものに働きかけていることから、他教科等の「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」という観点別の評価が馴染まないため、「観点」とせず「視点」という言葉を用います。

【評価の視点1】一面的な見方から多面的・多角的な見方への発展しているか。

【評価の視点2】道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

教師は、授業のねらいとする道徳的価値に関する道徳性を育てるために、学習指導過程や指導方法を工夫しながら、主体的・対話的で深い学びを構想します。そのような指導の工夫を行うことにより、表出した子供の学びの姿を評価する(一人一人の学習状況を見取り、成長の様子を受け止め、認め、励ます)こととなります。

認め・励ます評価を実施することで、子供たち一人一人の道徳性を着実に育てていきましょう!